



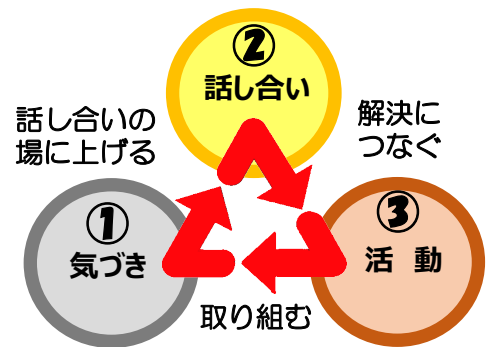
いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、どうすればいいのでしょうか？

趣味や特技を活かした活動やつどいの場を充実させて、笑顔があふれる地域、お互いさまの思いやりと支えあいの仕組みを地域の皆さんと一緒に考えていきます!!

大和郡山市社会福祉協議会では、「地域の課題解決力を育む地区社協づくり」を目指して、地区社協と協働で、課題解決サイクル「地区社協 大和郡山モデル」の構築に向けて取り組んでいます。

- ①住民同士がつながりを持ち、生活・福祉課題に気づく
(発見する)
- ②住民参加による生活・福祉課題を共有、解決する
- ③生活・福祉課題を共有し、新たな活動を生み出す

【地区社協 大和郡山モデル】



矢田ふる里まつり 4年ぶりに開催

新型コロナウイルス感染症の影響により開催が中止になっていた「矢田ふる里まつり」が4年ぶりに開催されました。コロナ禍を経ての開催に向けて実行委員会では、自治会などの各種団体の模擬店だけではなく、キッチンカーや子どもが楽しめるプログラム(ふわふわ)など、プログラムの見直しを行いました。実行委員長の今西康彰さんは「子どもからお年寄りまで幅広い年代で交流ができ、地域のつながりを持てるイベントとして、多くの住民に参加してもらい、盛り上げていきたい。」と話しました。

地域のつながりが希薄化する中、矢田ふる里まつりは、ふだん地域の活動に顔を出す機会が少なくても、楽しみながら地域のことを知ったり、同じ町内会の人たちと交流したりすることができる大切な行事です。私たちの身の回りで起こっている、子どもを狙う犯罪、高齢者の孤独死など、声を掛け合うコミュニティでは未然に防ぐことができると言われています。

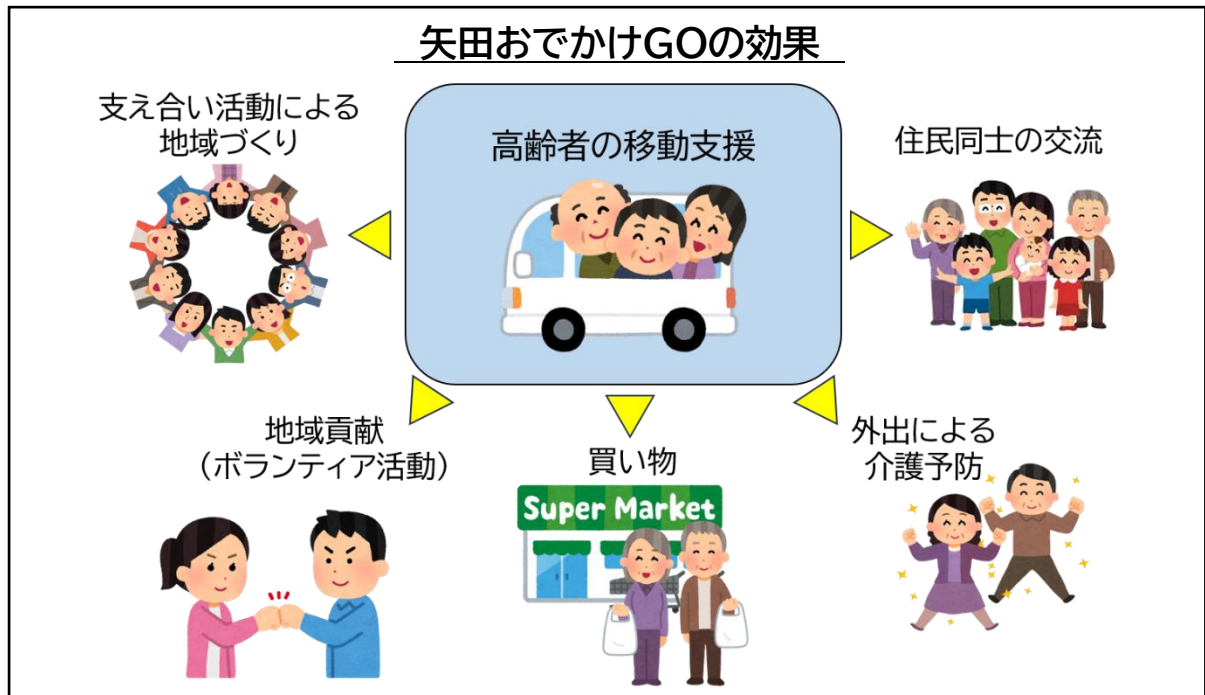
地域の人々とコミュニケーションを取る機会が少なくなったこのご時世、地域のイベントに参加することは、住民同士のつながりをつくるとても貴重な機会です。ぜひ、矢田地区社協の行事など、様々な地域活動に参加していきましょう。



矢田おでかけGO ～運行開始から3年目に突入～

令和3年8月から運行を開始した「矢田おでかけGO」も早や3年目を迎えました。城ヶ丘コースを皮切りに令和4年4月から北矢田コース、令和5年4月から矢田山コースと、運行範囲を拡大しています。

なぜ、移動支援が必要なのでしょう？ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加し、高齢者の免許返納問題も相まって、高齢者の移動問題は一部の人の問題ではなく、「わが事」の問題になってきています。住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、移動の問題は避けて通れなくなっています。



上記のように、矢田地区社協では、単に移動支援を行うだけではなく、利用することで利用者同士のふれあい・見守り合いや、外出することでの介護予防を目的としています。

このような住民主体の移動支援は、運転をするボランティアの力はもちろんのこと、乗って支えて維持していくことも大切です。持続可能な移動支援とするためには、地域住民ひとり一人の理解と協力が必要です。今後とも、皆様のご協力・ご支援よろしく申し上げます。

運転ボランティア募集中！【条件】性別問わず 75 歳未満で、普通運転免許を所有している方
月2～3回 半日程度で、自分のペースに合わせて活動できます。

【地区社協ってなに？】

市内には8つの地区社会福祉協議会(略して地区社協)があり、地域住民をはじめ、自治会、民生・児童委員、老人会、PTAなど、各種団体やボランティアらが主体となって、住民一人ひとりの生活・福祉課題を地域の課題として受けとめ、「誰もが安心して暮らすことのできるまちづくり」を推進する住民組織です。住民相互の支えあい活動を広げるため、講演会や世代間交流事業を開催し、高齢者の見守り活動や健康づくりなどに取り組んでいます。

高齢化が進むなか、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住民同士のつながりや見守り、支えあいの仕組みが必要となります。

生活支援体制整備事業では、地域の皆様とともに身近な地域での支え合いの地域づくりを進めます。(大和郡山市委託事業)

【問合せ】大和郡山市社会福祉協議会 福祉課
大和郡山市植槻町3-8社会福祉会館内
電話 53-6531/FAX 55-0986